

令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明会 おもな説明内容、おもな質問・回答一覧

【地域住民向け説明会 実施日：令和4年7月17日、7月23日】

おもな説明内容（教育環境の整備について）

令和7年度～【目途】

令和17年度～【目途】

小中連携教育

中山小学校



〔R7児童数 193人〕
〔学級数 7学級〕

西中学校



〔R7生徒数 192人〕
〔学級数 6学級〕

伊草小学校



〔R7児童数 233人〕
〔学級数 9学級〕

小中学校が互いに連携・交流しながら、共同で授業や行事等を行います。伊草小学校は川島中学校とも連携・交流します。

施設一体型小中一貫教育校（先行統合）

小中一貫教育校（川島中学校内）



〔つばさ南・つばさ北小の統合校〕
〔R7児童数 222人〕
〔学級数 10学級〕

〔川島中学校〕
〔R7生徒数 197人〕
〔学級数 6学級〕

小学校5、6年生は現在の川島中学校校舎に入り、小1～4年生は、新たに増築する校舎（小学校低学年棟）に入る計画です。

施設一体型小中一貫教育校（最終統合）



〔つばさ南・つばさ北小、中山小・伊草小の統合校〕
〔R17児童数 294人〕
〔学級数 12学級〕

〔川島中・西中の統合校〕
〔R17生徒数 188人〕
〔学級数 6学級〕

小中一貫教育校として、新しい校舎を新設する予定です。

おもな説明内容（小中一貫教育でやること できること）

これまでの小中学校

6 年間

小学校

3 年間

中学校

これからの小中一貫教育校

9

9 年間を見通した質の高い教育を展開します

前期
(第1学年～第4学年)

中期
(第5学年～第7学年)

後期
(第8学年～第9学年)

基礎基本の徹底、学習習慣の確立、生活力の向上	基礎基本を活用した学びの充実、豊かな人間関係づくり	学びの深化・発展、応用力の向上、社会への実践力の育成
◆小中学校の教師が学び合い高め合う教育活動の展開◆		
学級担任制：45分授業	教科担任制：50分授業	
<ul style="list-style-type: none"> ●仲間づくりと学習習慣、生活規律 ●学びの楽しさ、分かる喜び ●学んだことの活用 ●相手の気持ちを考えての行動 ●折り合いをつける力 ●4年生がリーダーで活動 ●早期からの外国語活動(中学校教師の参画) 	<ul style="list-style-type: none"> ●協働的な学び ●探求心 ●自己肯定感 ●中学校へのスムーズな接続(中1ギャップ) ●積極的な小中の授業交流 ●5年生から部活動(希望者) 	<ul style="list-style-type: none"> ●思考力、判断力、表現力 ●未来を切り開く力 ●自分らしい生き方・在り方 ●地域・社会を意識した実践力 ●希望する進路の実現 ●学習のきめ細かい対応(小学校教師の参画)
9年間の教育活動の重点とねらう力		
<ul style="list-style-type: none"> ●重点：ICT教育、英語教育、キャリア教育、特別支援教育、道徳・特別活動、総合的学習の時間 ●ねらう力：論理的な思考力と問題を解決する能力、創造性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力 等 		
<p style="font-weight: bold; margin: 0;">■ 地域に目を向け 地域に働きかけ 地域を愛する ■</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">“未来のかわじままち”を創る川島っ子の育成</p>		

おもな質問・回答一覧

おもな質問・意見		回答
I つばさ南小・つばさ北小の統合により、川島中学校地内に小中一貫教育校が開校された場合について		
①	学校と地域の関わりをどう考えているのか	地域において、学校は非常に重要であるという理解をしています。例えば、統合後も、農業等の体験学習を通じることで、学校と地域が関わりを持つことも考えられますので、様々な場面で地域との交流ができるよう努めてまいります。
②	スクールバスの運行は2便体制でなく1便体制でお願いしたい	小中一貫教育校の開校時には、現在よりもバスの台数を増やす必要もあると思います。できる限り1便で送迎したいと考えています。
③	スクールバスの運行は、登校にかかる実測距離や地域の児童家庭数なども考慮に入れていただきたい	現在、スクールバスの運行対象地域は、学校から直線で2kmを超える地域としているものですが、2km圏内であっても、子どもの人数が少なく通学班が組めない場合もありますし、実際に歩く距離が2kmを超える場合もありますので、実測距離や地域の児童家庭数なども考慮に入れながら、スクールバスの運行体制を検討したいと考えています。
④	学童保育室はどうなるのか。定員が満杯で預けられないこともあるのか。	学童保育室については、中学校敷地内に増築する小学校低学年棟の中に設置できるか、あるいは中学校校舎内に設置できるか、現在、検討しているところです。学童保育室の設置が難しい場合には、下校時にスクールバスを活用し、つばさ南小学校とつばさ北小学校に隣接する学童保育室へ利用する小学生を送る対応を考えています。学童保育は、町としてしっかり責任をもって対応しますので、預けられないということはないよう取り組んでいます。
⑤	災害時における下校の対応をどう考えているか	水害時は、台風や線状降水帯が考えられますが、台風であれば、数日前から予想ができますので、河川の水位が上昇しているような状況で、子どもたちが学校にいるということがないように、早い段階で子どもたちを帰宅させるような対応をとります。また、線状降水帯であれば、気象庁で6時間前に発表すると聞いていますので、状況に応じてになりますが、町でも情報を早く収集し、保護者へ直ちに連絡し、帰宅又は保護者へ引き渡しといった対応をとることになります。地震であれば、校長の判断で、帰宅又は引き渡しといった対応をとることになります。何れにしましても、災害時には子どもたちの安全を第1に考えて、対応してまいります。
⑥	教職員の人数は、何人になるのか	見込みでは、県費職員が37人程度、町の会計年度任用職員が20人程度と見込んでいることから、合計で57人程度と見込んでいます。
II 川島中学校の小中一貫教育校化に伴う整備について		
①	整備費をどう考えているか	令和7年度の整備内容は、おもに小学校低学年棟のプレハブでのリース方式による増築と、川島中学校校舎の改修です。これらに2億円から3億円ほど費用を見込んでいます。
②	小中一貫校化に伴う教育費の削減についてどう考えているか	小学校低学年棟の建築などで、初期投資はかかりますが、つばさ南小学校、つばさ北小学校にかかる費用が削減されるため、長期的には教育費の削減に繋がっていくと考えています。また、教職員の人件費は県費になりますが、同じく長期的には、子どもの数の減少に伴い教員の数も減っていくため、教職員の人件費も削減されていくと考えています。
IV 令和17年度を目途に、一校に集約した小中一貫教育校を設置することについて		
①	設置場所は決まっているような誤解を招かないか	限られた広報紙のページ、また、教育専門用語もあつたため、分かりにくい部分があつたかもしれませんが、設置場所は決まっていないため、今後の、小中一貫教育校については分かりやすい説明に努めてまいります。
②	整備費をどう考えているか	令和17年度の整備内容は未定なので整備費をお答えすることはできません。
③	登下校の際の国道254号線バイパスを横断するリスクをどう考えているのか	令和17年度を目途とした、小中一貫教育校の設置場所については決定していませんが、仮に、川島中学校周辺に、小中一貫教育校を設置ということになれば、中山地区、伊草地区の子どもたちはスクールバスで送迎することになると考えます。
V 小中一貫教育推進に伴う疑問について		
①	小中一貫教育のデメリットは何か	小中一貫教育のデメリットの1つとして、小学5、6年生段階のリーダー的資質が育ちにくいということがあります。その対応策として、運動会などの行事を小学生と中学生を別々にして、小学校5、6年生をリーダーとし、リーダー的資質を育てていくという対応策があります。
②	小中一貫教育の狙いとしてといる「質の高い教育」とは	1つには、教員と子どもたちとの間での主体的な対話による授業の展開を指しております。そのためには、小学校の教員が中学校で、中学校の教員が小学校で授業をすることが必要と考えています。小・中学校の教員が指導方法について、お互いに学び合う中で、授業の改善を図られることによって、質の高い授業を目指してまいります。
VI その他		
①	つばさ南小学校、つばさ北小学校が廃校になった後、避難所としての利用はどうなるのか	町として、老朽化した施設を管理していくことが財政的に難しくなっていますが、今後の活用方法については、旧出丸小学校や旧小見野小学校と同じように、避難所としての機能を残しつつ、地域住民に開放して利用するのか、あるいは除却等まで視野に入れながら検討を進め、庁内で協議してまいります。
②	県内、近隣自治体における小中一貫教育校の事例、取組はどうなっているか	埼玉県内の町村において、現時点では、小中一貫教育校を実施しているところはありませんが、比企管内では、嵐山町において令和7年度に小中一貫教育校が予定されておりましたし、吉見町でも、6つの小学校を1校に集約し、中学校と小中一貫教育を進める方向で、今年度から具体的な準備を始めたと聞いています。県内だけでなく、県外も含めて情報収集を進めてまいります。
③	スクールバスを利用する場合、児童の体力が低下しないか	体力面について、現在スクールバスを利用している児童たちに、体力低下の傾向は見られません。朝や下校の時間を使って、子どもたちを校庭で遊ばせるなど、学校にはよく目をかけるよう指導しています。
④	教員、子どもたちに説明していただきたい	子どもたちのことを1番優先しなければならないのは言うまでもありませんが、その前に、小学校、中学校の教員に小中一貫教育校に対する不安があったので、まずは教員へ説明を行い、続いて保護者、地域住民への説明を行いました。今後、子どもたちにも分かりやすく丁寧に説明を行いたいと考えています。
⑤	小中一貫教育に関して、教職員からどのような質問、意見があつたのか	小学生の部活動参加での小学校教員の関わり方、小・中学校間の規律の違いをどう合わせていくのか、学校間の交流、連携をどう図っていくのか、さらに川島中学校の小中一貫教育校化に関し、具体的な質問として、小学校備品の収納保管や、老朽箇所の改善が必要といった意見もありました。
⑥	小中一貫教育に関する説明会の周知をどのように行ったのか	全ての保護者の案内チラシを配布しました。この案内チラシには、広報紙6月号の小中一貫教育校の特集ページをコピーしたものを添付しました。また、町ホームページに、説明会資料を載せて、事前に資料を見れるようにしました。
⑦	保護者説明会の開催状況はどうだったのか。また、令和7年度のつばさ南小とつばさ北小の統合による小中一貫教育校に対し、保護者の反応はどうであったか	統合対象校であるつばさ南小学校、つばさ北小学校の保護者説明会、そして、これから小学校に進学するとねがわ幼稚園の保護者説明会では、各会場とも30名程度参加があり、100件ほど質問をいただきましたが、説明、回答も丁寧にまいりました。令和7年度のつばさ南小とつばさ北小の統合による小中一貫教育校の開校には、ご理解いただけたものと認識しています。

	⑧ 小中一貫教育校の計画は見直すべきでは	平成30年度につばさ南小とつばさ北小が開校した後、小中一貫教育推進協議会を設置し、県内外の先進事例の視察を重ね、協議、検討を進め、今年3月に川島町総合教育会議で決定したものです。令和7年度を目途としている小中一貫教育校の統合対象としているつばさ南小学校とつばさ北小学校では、児童数を見ても、この2校は規模の適正化が必要であることは明らかです。よって、令和7年度に、この2校を統合し、川島中学校との小中一貫校の開校を目指して、準備を進めていきます。
	⑨ コロナ禍以前と以後では、社会情勢は激変したと感じる。このような変化から、将来を担う子どもたちを大切に育てていこうという意識は、以前よりも真剣になっていると感じる。新しい時代には新しい視点が必要だと思う。特に若い人の意見を取り入れながら、社会に貢献できる人材育成に取り組んでいただきたい。	今の時代は、昭和、平成の時代とも異なり、まったく先が見えない時代だと言えます。このため、文科省では、子どもたちが将来、社会の中で生き抜けるように、学習内容を、暗記重視から思考力や表現力の育成などに変えてきています。このようなことから、小学校の先生が持つきめ細かい指導方法と、中学校の先生が持つ専門性を融合し、子どもたちをきめ細かく指導する「小中一貫教育」が必要だと思います。小中一貫教育によって、一人の子どもも取りこぼさない仕組みを作っていきたいと思います。